



投資に伴うリスク

株式取引、先物取引、為替証拠金取引は元本が保証された取引ではありません。投資金額の一部または全額を失う可能性があります。投資の前に許容できるリスクについて十分に考えてから投資を行いましょう。用意する投資資金は生活に必要な資金とは別の余剰資金であるべきです。

総額の投資資金に対して小額の証拠金で取引は、多額の利益になることもありますが、逆に多額の損失につながる危険性があります。当初の証拠金では足りなくなり、追加で証拠金を預ける必要が出てくることもあります。さらに損失が拡大した場合には証拠金以上の損失になります。

ヘリオス株式会社(以下ヘリオス)が提供する投資アイデアとツールは、投資判断を補うための材料であり、確実な利益を保証するものではありません。最終的な投資決定は投資家自身の判断で行ってください。

目次

ヘリオス株式会社と長谷川博也

長谷川博也	3
-------	---

アドバンスパッケージの概要

アドバンスパッケージ	5
------------	---

アドバンスパッケージファイルの取り込み

6

アドバンスパッケージの指標

Hiroya VWAP バンド	8
Hiroya ピボット	9
Hiroya レンジブレイクアウト	10
Hiroya マーケット・プロファイル	11
Hiroya アクкумуляレート・プロファイル	12
Hiroya ボリューム・プロファイル	13
Hiroya 陰陽・平均・半値足	14
Hiroya ギャップ・ハイライト	15
Hiroya インデックス	16
Hiroya トレンド・シグナル	17
Hiroya 日足高安	18
Hiroya 3 連続	19
Hiroya 移動平均バンド	20

長谷川 博也

システムと裁量の融合



ヘリオス株式会社代表取締役社長。日本テクニカルアナリスト協会 テクニカルアナリスト(CMTA)。愛称 Hiroya(ヒロヤ)。*ヘリオス株式会社 関東財務局(金商)第2050号

セミナー講演履歴、雑誌インタビュー等、最新情報はこちらをご覧ください。
<http://hiroya.livedoor.biz/>

アドバンスパッケージの概要

アドバンスパッケージ – システム的アプローチによる裁量トレード

コンピューターの普及と共に何千というテクニカル指標が開発/公開されています。それらは数字をそのまま出力したり、1本のラインによって表示/描画されることがほとんどです。

もしその表示方法を工夫してみたら、どう見えるでしょうか。今まで気がつかなかった優位性を発見できるかもしれません。例えばライン形式をヒストグラム形式に変更するだけで、指標の流れを認識しやすくなり判断が速くなるかもしれません。またある条件で矢印を出すようにすれば、機械的な判断が可能になるでしょう。

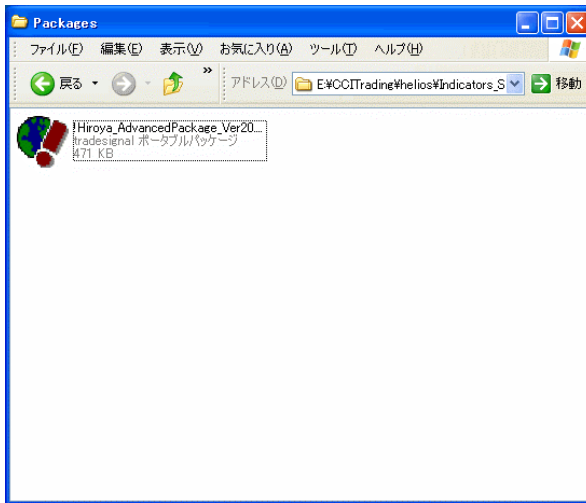
セミナー主催者、セミナー講師、プロディーラー、機関投資家、個人投資家を対象に、ヘリオスはシステム的なアプローチを可能にするハイエンドで実用的なテクニカル指標を提供します。

***アドバンスパッケージにはシステムパッケージは付属していません。別途トレードシグナルのお申し込みが必要です。**

◆ 概要

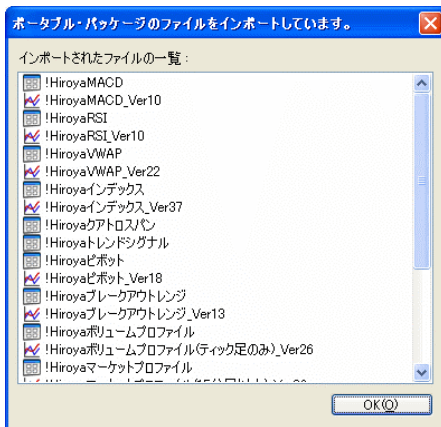
アドバンスパッケージに含まれている指標別の説明はマニュアル下部をご参照ください。

アドバンスパッケージファイルの取り込み

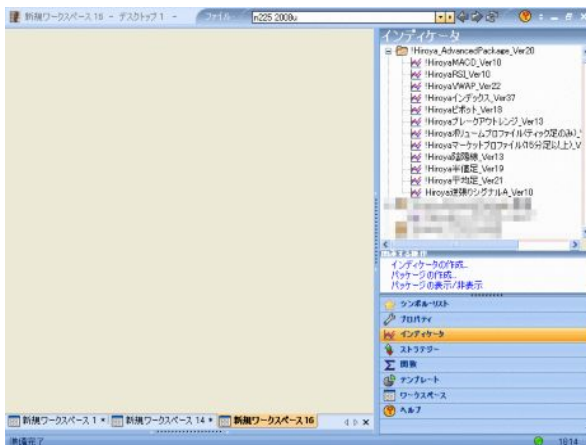


トレードシグナルのパッケージファイルをダブルクリックします。

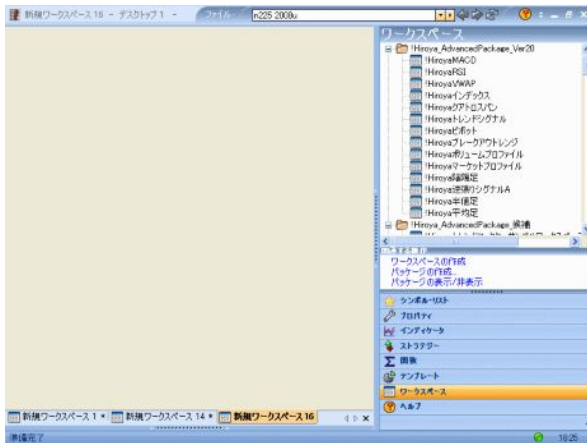
*トレードシグナルが起動していない状態でダブルクリックした場合は、トレードシグナルのログイン画面がたちあがります。ログイン後、下記手順へ進んでください。



トレードシグナルのウィンドウが開きます。インポートされたファイルの一覧にインディケータとワークスペースファイルが複数ついているのを確認してOKをクリックします。



トレードシグナルのツールボックスからインディケータを開きます。先ほどインポートしたインディケータが入っています。チャートを作成して、任意のインディケータを適用します。



もしくは、パッケージには既にインディケータが適用された状態のワークスペースが入っているので、そちらを利用することができます。トレードシグナルのツールボックスからワークスペースを開きます。先ほどインポートしたワークスペースが入っています。任意のワークスペースをクリックしてワークスペースを開きます。



アドバンス・テクニカル指標が既に適用されているワークスペースが開きます。

取り込み作業はこれで終了です。すぐに使用できる状態なので、ザラ場始まれば指標とチャートはリアルタイムで更新を始めます。

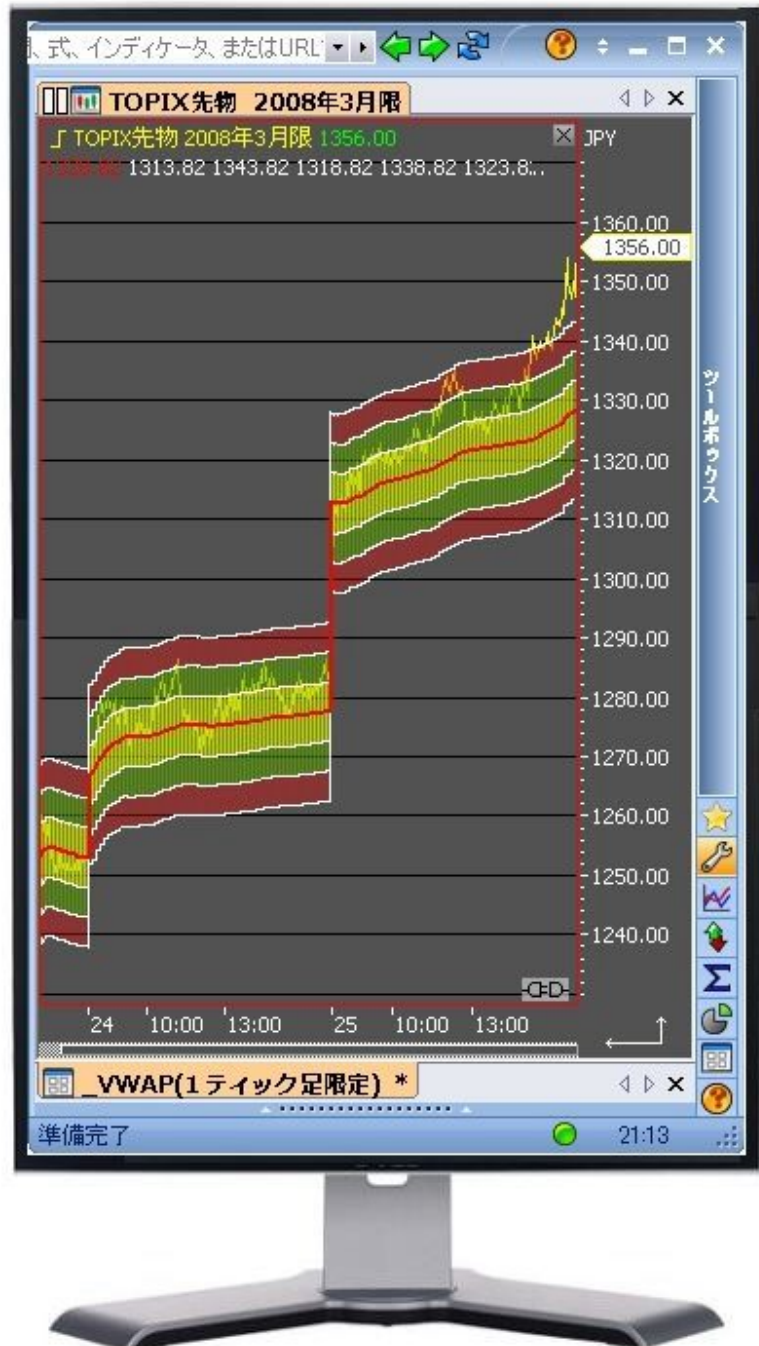
アドバンスパッケージの指標



VWAP バンド +

VWAP にプラス α を

Hiroya VWAP はこれまでの VWAP に一工夫加えたこれまでに見られない形態の VWAP です。そこで VWAP バンド+ と名付けました。VWAP バンド+ は VWAP を中心に上下 3 本線から構成されています。上下 3 本線は VWAP からティック数 / パーセントの距離をあらわしています。ボリンジャーバンドが標準偏差を用いるのとは異なり、VWAP バンド+ は値幅または一定の割合を用いて中心線からの乖離を見ます。もう一つの特徴は VWAP の計算方法です。VWAP バンド+ はティック足専用の指標です。これは正確な VWAP の計算にはティック足が最適だからです。従来の VWAP にバンドを加えることで、VWAP バンド+ は逆張り、順張り、どちらにでも利用できる指標になりました。





アドバンスパッケージの指標



ピボット 3 種

3 種類のピボット

Hiroya ピボット指標は、一般的に知られているフローア(Floor)ピボットのほかに、欧米で広く浸透している、ウィッディー(Woodie)とカマリラ(Camarilla)も選択できるようになっています。中心線を起点とする上下のラインは、抵抗線や支持線となりうる価格帯の目安として、特にデイトレーダーに重宝されています。ライン上には価格が表示されるので、ラインが位置する価格を瞬時に認識することができます。逆張りと同張り、どちらにも利用できる指標です。

アドバンスパッケージの指標



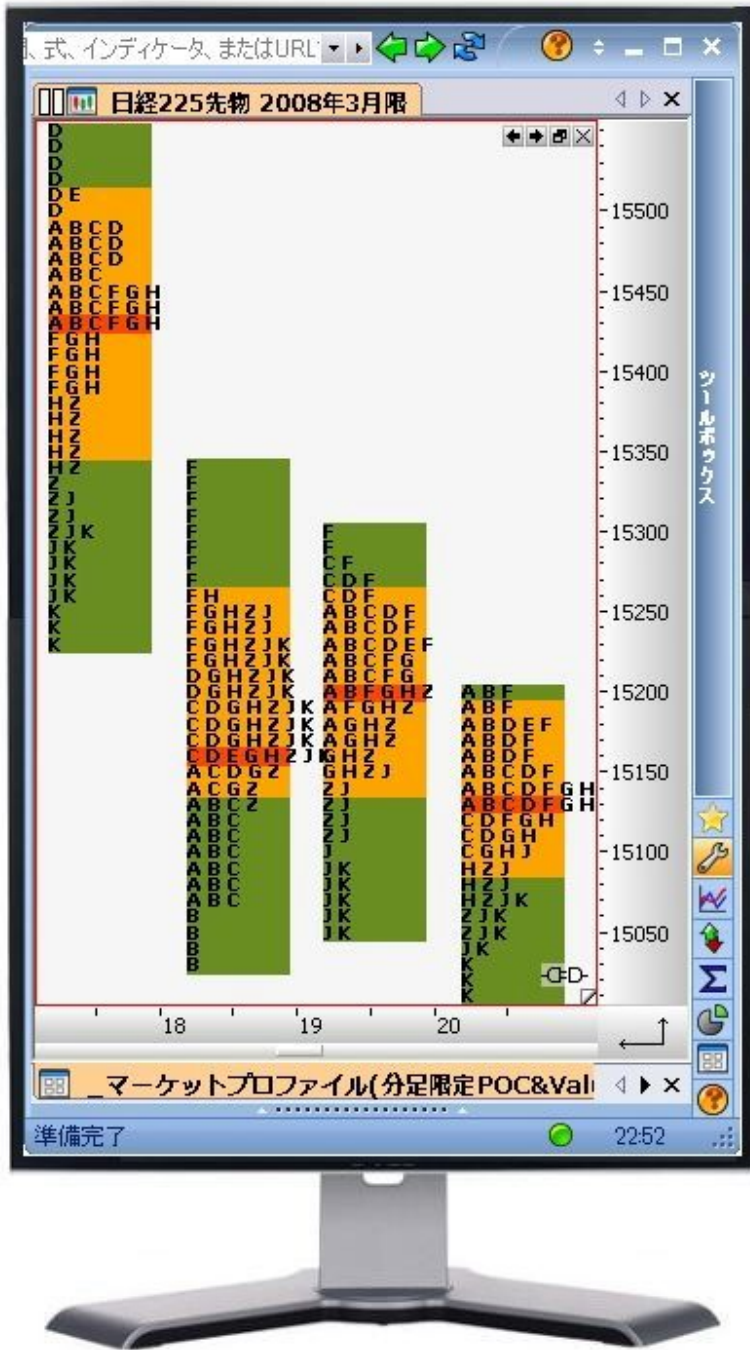
ブレイクアウトレンジ

時間帯別レンジを色別に

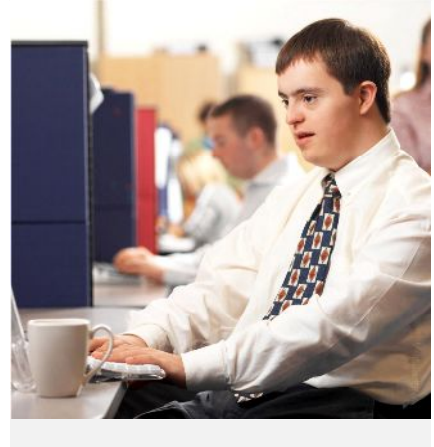
Hiroya ブレイクアウトレンジ (時間帯別レンジ) 表示はレンジ毎に異なる色で区別されているため、ライン描画よりもそれぞれの時間帯のレンジが非常に見やすくなっています。一般的に IR ブレイク (開始 60 分) が用いられますが、他の時間帯のレンジを見たいトレーダーにとって有用な指標です。例えば、寄り付きから 60 分、90 分、120 分というように区切ることが可能です。レンジの上限と下限には価格が表示されます。

非常に単純な指標ですが、表示形式を工夫することで、トレーダーの間違いを防いだり、ラインを手動で描画する手間を省くことにつながっています。





アドバンスパッケージの指標



マーケット・プロファイル

POC と ValueArea 付き

マーケット・プロファイルは表示できるトレードツールが少ないため、とてもマニアックな指標と言えるでしょう。トレードシグナルにはそのマーケット・プロファイル専用のウィンドウがありますが、Hiroya が提供するマーケット・プロファイルはチャートに適用できる指標型となっているため、手軽に利用できるのが特徴です。最大の特徴は POC (日本ではモードと呼ばれる) と ValueArea (バリューエリア) が一目で認識できるように、該当する範囲を色分けしているところにあります。POC と ValueArea の上限と下限はトレーダーが抵抗線と支持線として重要視する価格帯です。

アドバンスパッケージの指標



アキュミュレート・ プロフィール

プロフィールの積み重ね

日々のマーケット・プロフィールを積み重ねて表示すると、頻繁にトレードされている価格帯の山がより高くなり、抵抗線や支持線となりうる価格が見えてきます。Hiroya アキュミュレート・プロフィールの特徴は通常のマーケット・プロフィール同様、POC と ValueArea を備えていることです。つまり積み重ねたプロフィール全体を1つのマーケット・プロフィールと見なし、そこに日々のマーケット・プロフィールと同様の概念を取り入れることに成功しました。





アドバンスパッケージの指標

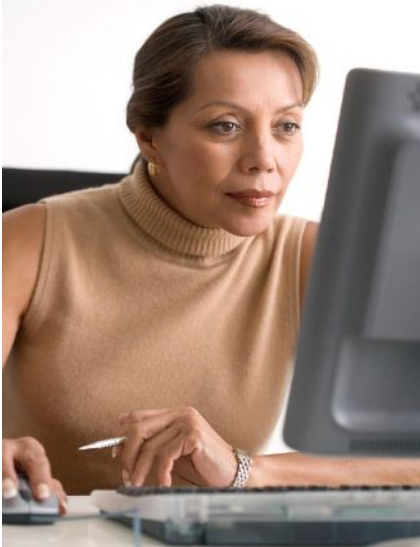


ボリューム・プロファイル

より高度な分析を手元に

Hiroya ボリューム(出来高)・プロファイルはティックベースに価格帯別出来高を積み重ねて、マーケット・プロファイルよりも高精度に、取引量が多い価格帯を表示します。山が高い価格帯ほど抵抗線や支持線として機能する可能性が高くなります。棒形状と数字で出来高を表示しているので、直感的に認識しやすくなっています。マーケット・プロファイルと同様、ボリューム・プロファイルも POC と ValueArea を色分けしています。

アドバンスパッケージの指標



陰陽、平均、半値足

特殊な時系列足

始値、高値、安値、終値をそのまま使用する通常のローソク足の他に、多くのトレーダーにひそかに支持、利用されている足があります。この特殊な足のニーズは高く、Hiroyaはトレード言語エキーラを備えるトレードシグナルでその要望を実現しました。

陰陽足は3つの期間を同時に表示して、それぞれの陽転と陰転の関係からトレンドを推し量ります。

平均足は陽転と陰転でトレンドの転換点を、足の形状でその強さを推し量ります。

半値足は、Hiroya ツールを使用している、あるトレーダーの手法をトレードするために利用する指標として開発されました。





アドバンスパッケージの指標



ギャップ・ハイライト

あるようでなかった指標

ギャップの認識方法は、手動でラインを引いたり、描画系のツールを利用してボックスを描くことが一般的でしたが、Hiroyaはその煩わしさを無くし、指定した期間内でギャップがあれば、自動的にハイライトする指標を開発しました。これにより一目でギャップ認識が可能になります。

この指標は単純ですが、あるようでなかった、しかしあればつい利用してみたくなる指標です。

アドバンスパッケージの指標

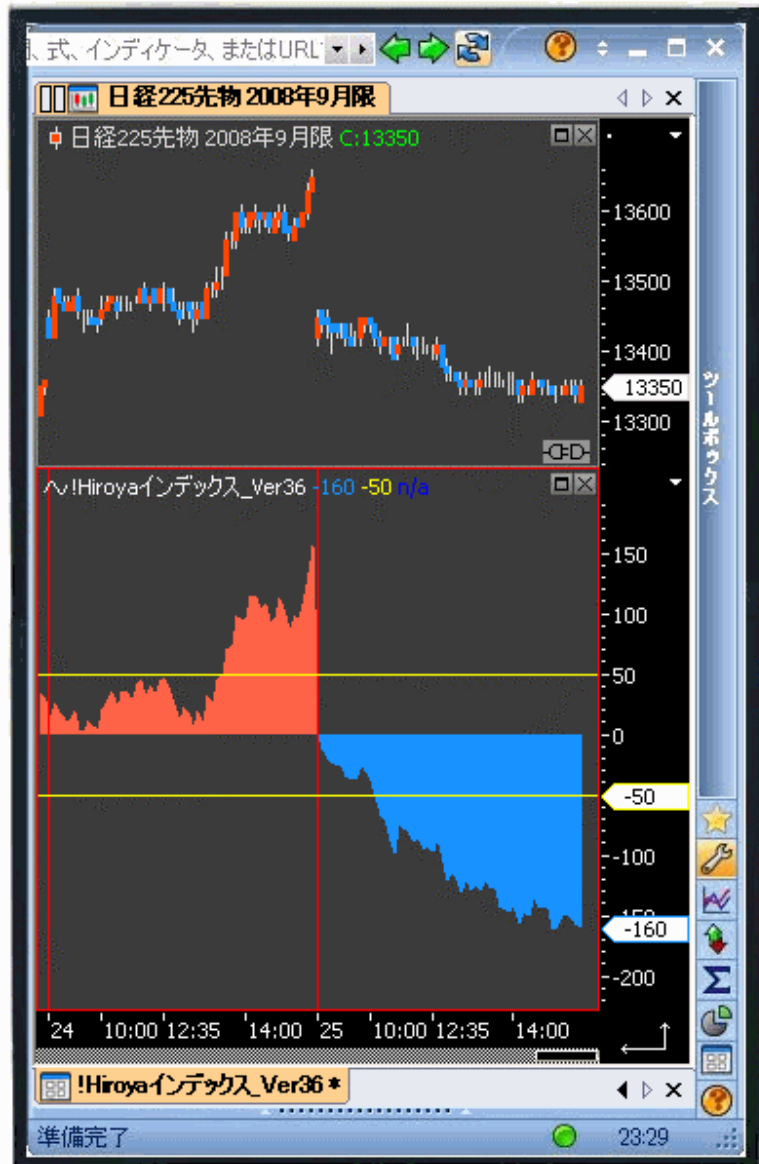


インデックス

今日の方法はどっちだ

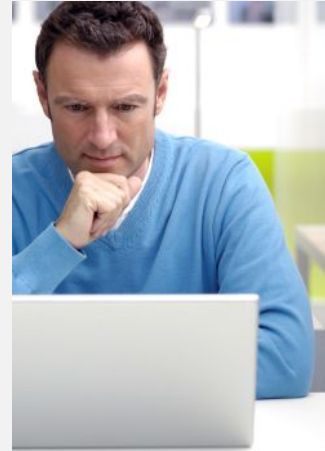
今日のマーケットが陽線になるか、陰線になるか、引けてみないとわかりません。しかし場中にある程度予測することは可能です。Hiroyaが開発したオリジナルのインデックス型指標は、その日のマーケットの方向性を推測するのに役立つツールです。決して万能ではありませんが、トレンド・フォロワーのトレーダーにとって欠かすことができない指標となるはずです。

この指標がある一定のレベルを超えたとき、その日は大引けにかけて、その超えた方向に行く可能性が高いことを示唆しています。





アドバンスパッケージの指標



トレンド・シグナル

直近の高安値を重視

トレンド・シグナルはオープニング連子における高安値のブレイクアウト手法を基本としています。そこに一目均衡表や移動平均をフィルターとして考慮に入れることで、より確実なブレイクアウトを識別します。

時間の経過とともに過去の重要な高安値は見逃しがちですが、トレンド・シグナルはダイヤモンド記号の描画と同時に値段表示をすることによって、一目で高安値の位置と価格を認識できるようにしています。

ハイエンドなツールが複数の条件の組み合わせをユーザーに代わって監視します。

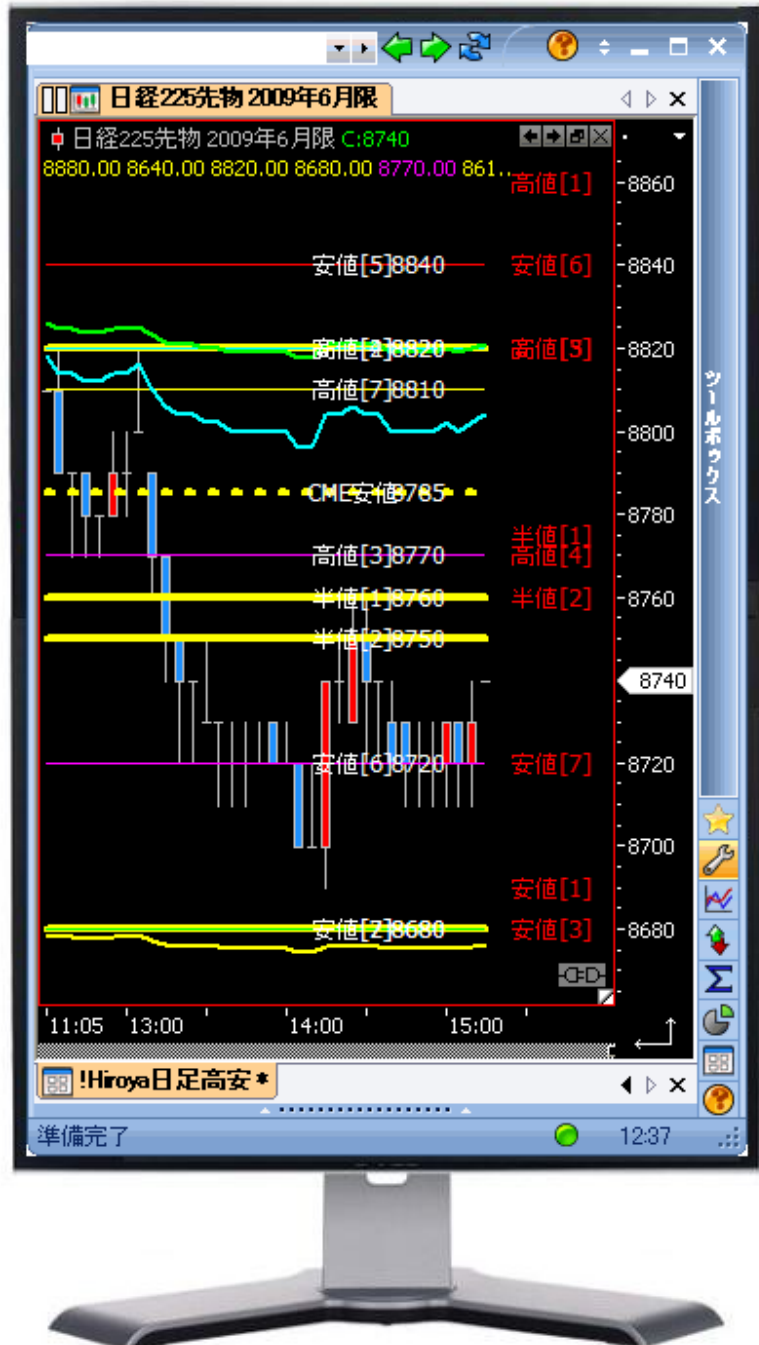
アドバンスパッケージの指標



日足高安

抵抗線と支持線の重要性

1日前から7日前までの高値と安値、1日前と2日前の半値、前日CMEの高値と安値、日足ベースの5期間、13期間、25期間、75期間単純移動平均、を描画しています。特に1日前と2日前の高値と安値、1日前と2日前の半値、前日CMEの高値と安値はHiroyaの手法において重要なため、黄色の太線で強調されています。それぞれのラインは状況に応じて抵抗線にも支持線にもなります。複数のラインが密集している狭い価格帯が重要なポイントですが、Hiroyaが不定期にプロのトレーダー向けに行っているプライベートセミナーでは、その他にも様々な見方を紹介しています。





アドバンスパッケージの指標



3 連続

トレンドに乗る

トレンドの方向性を見る指標は移動平均等の一般的な指標や、複雑な計算式を使用した指標ばかりではありません。ローソク足のパターンでも判別することが可能です。

Hiroya 3 連続は連続上昇と連続下降のローソク足パターンを認識することによって上昇トレンドと下降トレンドを捉えます。

トレンドが上昇しているのか、下降しているのか、これまで様々な指標で試してしっくりこないと感じているトレーダーにとって、シンプルに上下の矢印で指示してくれる **Hiroya 3 連続**は重宝する指標になるでしょう。

アドバンスパッケージの指標



移動平均バンド

今日の方角はどっちだ

移動平均は現在から過去までの値を繋げて線として捉えますが、その線を中心として上下に価格帯を加えることである程度の幅の感覚を持ってマーケットを眺めることができます。

Hiroya がそのようにマーケットを観察する理由は、価格は必ずしも移動平均線を境に変動するわけではなく、多数の人間の心理が交錯する中、上下にある程度の誤差を持ってリアクションがあるためです。

シンプルですが、これまでとは違った方向性から価格の変動を予測することができるでしょう。

